

水稻新品種「晴れすがた」の育成

1. 育種のねらい

栃木県中・南部の普通植地帯では、月の光、星の光に代わるコシヒカリ並みの良食味・高品質で縞葉枯病抵抗性品種が待望されていた。イネ縞葉枯病は、北関東の麦作地帯において、農業生産に大きな被害を与える流行を繰り返し、最近では昭和59年に本病発生面積は、作付け面積の約25%にまで及んだ。現在の縞葉枯病発生面積は2~3%の低い状態を推移しているが、縞葉枯病常発地域では、抵抗性品種を導入・栽培することが最も経済的かつ効率的な防除法である。このため、育種目標を、良食味・高品質で、コシヒカリと熟期分散できる縞葉枯病抵抗性を持つものとした。

2. 育成経過

晴れすがたは、昭和62年8月に栃木県農業試験場において、縞葉枯病抵抗性で多収な朝の光を母に、良食味なコシヒカリを父とする交配から育成されたうるち種である(図-1)。同年冬、ガラス室においてF₁(雑種第1代)を養成し、昭和63年F₂集団を養成し個体選抜を行い、以降、選抜・固定を図った系統である。平成2年に系統番号「う系5」を付し、生産力検定試験及び奨励品種決定予備調査に供試し、平成4年に系統名「栃木2号」を付し、奨励品種決定基本調査及び現地調査に供試した結果、有望と認められた。平成6年9月に品種登録を出願し、平成7年2月に栃木県の奨励(認定)品種に採用された。平成8年10月に「晴れすがた」と命名された。

3. 特性の概要

- (1) 稈長はコシヒカリより15cm程度短く、穂長はコシヒカリよりやや長く、粒着程度は中である(表-1)。穂数はコシヒカリよりやや少ないが、草型は中間型に属する。
- (2) 出穂期は、コシヒカリより2~5日、成熟期は2~4日早い、早生である。
- (3) 耐倒伏性はコシヒカリより強い中である。穂発芽性は、コシヒカリと同程度の難である。いもち病真性抵抗性遺伝子は、Pi-iを持つと推定され、いもち病ほ場抵抗性はコシヒカリより強いやや弱である。耐冷性はコシヒカリより弱いやや弱である。
- (4) 縞葉枯病には、Modan由来の抵抗性遺伝子を持ち、星の光並の高度抵抗性を示す。
- (5) 収量性は、普通植でコシヒカリに比べ122%と多収である。
- (6) 玄米の粒形は中中、粒大は中中で、玄米千粒重はコシヒカリよりやや軽い。玄米の乳白・腹白はコシヒカリより少なく、見かけの品質はコシヒカリに優る。
- (7) 食味官能評価は、初星より柔らかで粘りがあり、総合で初星より良く、コシヒカリに近い極良食味である。

4. 成果の要約

コシヒカリに近い食味と、月の光並の玄米品質を併せ持ち、晩植適応性が高くイネ縞葉枯抵抗性が強である水稻新品種晴れすがたを育成した。本品種の普及により、本県中・南部稲作生産の安定とおいしい栃木米の銘柄確立を進めることができる。

(担当 育種部 大谷和彦)

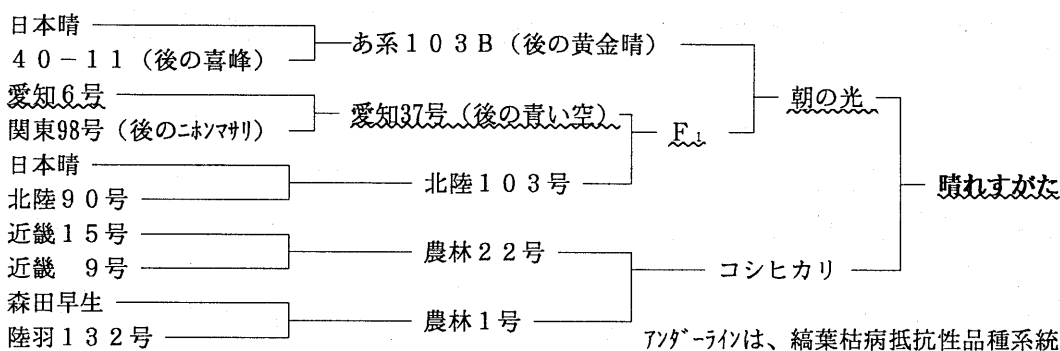


図-1 晴れすがたの系譜

表-1 生育収量成績 (育成地)

品 種 名	作 出 型	成 熟 期 月日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m ²	倒 伏	病 害					玄 米 重 kg/a	品 質	食 味 総 合		
							葉 い ち	穂 い ち	白 葉 枯	紋 枯	縞 葉 枯					
晴れすがた	標準	7.30	9.11	82	20.3	384	0.2	0.1	0.6	0.1	0.5	0.1	61.2	2.6	20.4	+0.63
	多肥	7.31	9.11	87	19.9	414	2.3	0.7	0.6	0	1.0	0	55.5	2.4	19.2	
	普通植	8.22	10.11	88	19.2	364	2.4	1.8	0.6	0	0.7	0	52.4	3.1	20.4	
コシヒカリ(対)	標準	8.4	9.15	95	19.2	392	3.0	0.2	0.8	0	0.5	0.3	60.7	3.3	21.3	+0.50
	多肥	8.3	9.16	103	19.1	414	4.3	0.6	2.2	0	1.0	0	46.1	5.7	20.3	
	普通植	8.24	10.13	105	18.5	380	4.7	2.0	1.2	0	0.6	0.3	42.8	5.8	21.1	
星の光(比)	標準	8.7	9.23	84	20.8	378	0.9	0.1	0.7	0	0.4	0	64.7	2.7	23.5	
	多肥	8.7	9.25	89	20.5	409	3.4	0.4	0.6	0	1.9	0	62.1	3.4	23.0	
	普通植	8.28	10.20	88	20.1	375	2.4	0.8	0.6	0	1.0	0	56.6	3.9	23.4	

注) 1. 標準：移植期5月7~11日、基肥窒素:0.6 リン酸:1.4 カリ:1.0kg/a、穂肥-18日に1回、平成2~7年の平均(5年の大冷害年は除く)。
 多肥：移植期5月7~11日、基肥窒素:0.8 リン酸:1.9 カリ:1.3kg/a、穂肥-18日に1回、平成6~7年の平均。
 普通植：移植期6月15~21日、基肥窒素:0.3~0.7 リン酸:0.7~1.7 カリ:0.5~1.2kg/a、穂肥-15日1回、平成2~7年の平均(5年の大冷害年は除く)。
 2. 倒伏、病害の多少は、0(無)~5(甚)。品質は、1(上上)~9(下下)農水省宇都宮食糧事務所調べ。食味は、基準品種初屋に比べて+3(優れる)~-3(劣る)

